日本と韓国

2015.9

愛知版 No.388

＊今月の花　仙人草

『最後になるかも知れない挨拶は 原点・名古屋で！』

原告ハルモニらと集おう『10.10』

金中坤氏　金性珠さん　朴海玉さん　李東連さん　梁錦徳さん

前へ！未解決 朝鮮女子勤労挺身隊問題

ご　案　内

つどい “原告に笑顔を”

◆期日＝10月10日（土）

◆会場＝公立学校共済HOTELルブラ王山会館

名古屋市千種区覚王山通　Tel：052-762-3151）
地下鉄東山線池下駅２番出口より徒歩３分

◆第１部　13:00 ～ 16:30　参加費：1,000円

0、【参加者の紹介】
1、【開会挨拶】　内河惠一（名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟弁護団長）
2、【原告と「市民の会」紹介】李國彦　（勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会常任代表）
3、【原告への花束贈呈と原告の言葉】
～休憩：15分～
4、【原田義雄コンサート】
5、【報告】金正熙弁護士
『韓国の高等法院判決と司法状況』
6、【韓国支援団体からの報告と提案】
李國彦　『韓国情勢と運動課題』
7、【日本の支援団体からの報告と提案】
（１）平野伸人（平和活動支援センター所長）
『三菱マテリアル和解交渉について』
～休憩：10分～
（２）矢野秀喜（朝鮮人強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動事務局長）
『戦後補償運動の課題』
（３）高橋 信（「名古屋支援会」共同代表）
『「名古屋支援会」の活動と二つの提案（①三菱重工、新日鐵住金、不二越工業への７団体（※）共同申入書 ②日本政府への７団体共同申入書）
（４）会場からの発言：記者の質問を中心に
8、【７団体共同アピール提案】
瀧日久仁子（「名古屋支援会」会員）
9、【閉会の挨拶】
寺尾光身（「名古屋支援会」共同代表）

（※）７団体＝名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟弁護団／名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会／三菱元徴用工在外被爆者問題訴訟団／日本製鐵元徴用工裁判を支援する会／第2次不二越強制連行・強制労働訴訟を支援する北陸連絡会／強制労働被害者立法をめざす日韓共同行動／勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会

◆第２部　17:00 ～ 19:00　懇親会
（参加費：4,000円）

声明

『強制徴用記録』のユネスコ登載推進に対する私たちの立場

（韓国）政府が強制徴用記録を世界記録遺産として推進するのは、遅まきながら幸いなことである。

日帝強制占領（＝日本の朝鮮植民地支配[編集部]）期間、老若男女を問わずに私たち朝鮮人が日帝の強制徴用によって奴隷のような境遇で強制労働はもちろん、命まで失った人が頻繁にあるというのに、日本政府はまだ謝罪も責任も負わないでいることが、解放七〇年の今日の現住所である。

かえって（日本の）アベ政府は強制徴用事実自体を否認したり、歪曲することで歴史を後退させている実情である。

日本政府は去る七月、強制徴用施設を含んだ産業施設を世界遺産として登載して『強制労働』事実を遺産登載申込書本文と注釈でもない会議録に残しながら、さらに、「強制労働でない」と主張することで、世界の人々の公憤を買った。

しかもアメリカと中国の強制労働被害者には、謝罪と補償をしながら、韓国人に対しては徹底的に冷遇する二重的態度を見せている。

このような点で、（韓国政府による）強制徴用記録の世界遺産登載は適切な対応だと見る。

ただしアベ政府の強制徴用施設の登載推進が具体化された時点から、このような対応戦略を通じて、アベ政府の歴史わい曲に、なぜ徹底的な対応ができなかったのか、という物足りなさと遺憾さがある。

また、被害者が、強大な日本の戦犯企業を相手に十数年にわたり被害補償裁判を行っていることにたいしても、韓国政府とは関係がない「私人間の訴訟」という立場で、日帝戦犯企業の（韓国）国内公共事業入札に最初から手離しの実情だ。

さらにユネスコ産業遺産登載合意後、「強制労働事実の敵視と被害補償とは別個」という政府の発表は、被害者の胸を二度三度も苦境に追い込んだ。

私たちはこの機会に、強制徴用記録のユネスコ登載を南北が共同で推進することを要請する。

南北が協調して、日本軍国主義者などの蛮行を世界に赤裸々に告発することを望む。

最後に、わが政府は、日本政府が去る七月、日帝強制徴用施設を世界産業遺産で登載決定時、二〇一七年十二月までに約束した、情報センター設置など諸般の計画が忠実に履行されるように、今から徹底的に備えるよう、私たちは求める。

（韓国）政府は、日本政府が国際機構と会員国を愚弄する事態を傍観していてはいけない。もしこの諸般条件を履行しなかった場合、世界遺産指定が取り消されるように、すべての力量を総動員しなければならないだろう。

このすべての過程で最も重要なのは、わが政府の巨視的で戦略的で包括的な対応であり、何よりも歴史の真実と正義に忠実であることを心から要請する。

二〇一五年九月十五日

国会議員　イ・イジェ・
国会議員　がウォン・ウク
CAIRCA文化財還収国際連帯
勤労挺身隊おばあさんと共に
する市民会

戦時、知多郡大府の三菱飛行場建設
朝鮮人労働者家族が日本各地から
学校史料からうきぼりに

一、はじめに

まずは左の【図表②】を見て頂きたい。

戦時の昭和一八年、知多郡大府町にあった吉田国民学校の各学年に占める外国人（この場合は朝鮮人学童）の比率を示すもの。それは、吉田校の北側【図表③】に建設中の三菱重工業（株）名古屋航空機製作所専用の飛行場建設に動員された、朝鮮人労働者家族の集住化を、端的に表している。

軍需企業三菱にあてがわれた広大な土地とその周りの関連区域は、現在の大府市、東海市、知多市にまたがる。

ちなみに当時、同じ知多半島には、国内の軍用機生産において、三菱と一・二を争う中島飛行機（株）半田製作所が、すでに専用飛行場をもつ大軍需工場として存在していた。

軍部・軍需産業界のみならず、中央と地方の行政、その他、民間諸団体そして国民の、戦時体制への、組み込み方および組み込まれ方には、並々ならぬ仕組みがあったに違いない。それらは、戦後七十年を迎える今日的な検証課題であるものの、半田・中島に比して、大府・三菱への「朝鮮半島からの動員と被害状況の調査」には、未着手部分があまりに多い。

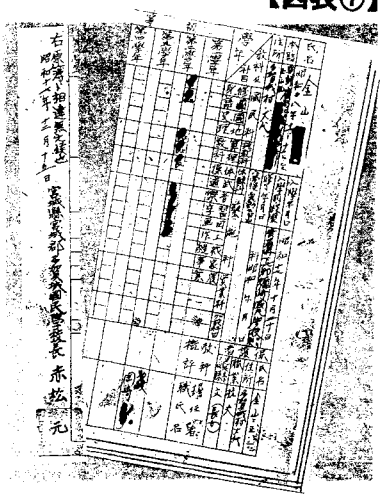
一方、同飛行場建設での、中国人の動員と犠牲者調査はかなりの進展を見せており、毎年、「愛知・大府飛行場中国人強制連行被害者を支援する会」主催の『殉難者追悼式典』も今年（九月十二日）七回目を迎えた。

その際、「大府飛行場建設への朝鮮人動員について」の報告を求め

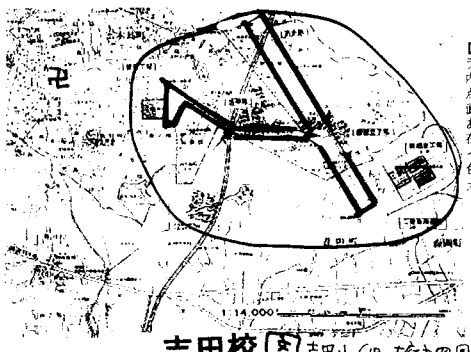
【図表②】　吉田国民学校における外国人数（昭和18年度）

学年	在席数	日本人	外国人	百分率
1	72人	61人	11人	15.2%
2	69	54	15	21.7
3	80	68	12	15.0
4	61	56	5	8.2
5	66	60	6	9.1
6	61	56	5	8.2
計	409	355	54	13.2

【図表①】



【図表③】



【地図説明】地図の斜めに走るラインが滑走路（現在も東海市内の県道243号線・新道才交差点から東南へ延びる約1.3kmの直線道路が滑走路の西端部分である。組立工場の大部分は、現在、豊田自動織機長草工場となっており、左上の整備工場（黄色く塗られている）は、現・富木島小学校である。）

られたのを機会に、これまで得た情報を整理してみた。

二、第一期工事の概要

太平洋戦争開始直前の一九四一年秋から一九四四年春まで進められた大府飛行場建設『**第一期工事**』の概要からみる。

※中国人労働者を新たに動員して進められた『**拡張工事**＝第二期工事』（期間一九四四年十一月～一九四五年六月）と区別するため本稿では、一九四四年春までの工事を便宜的に『第一期工事』と呼んでみる。

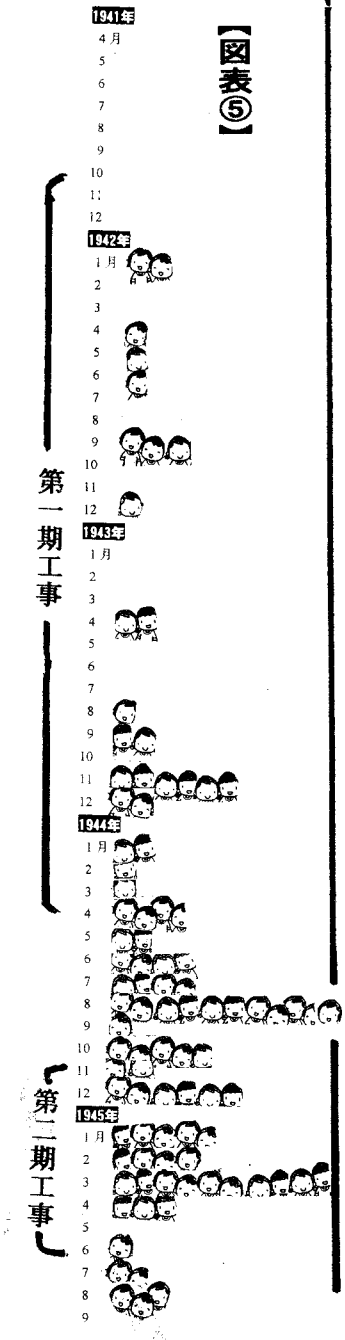
○同飛行場建設の軍事・政治的企画は、日本の軍と政府による。

○発注元は、三菱重工業（株）名古屋航空機製作所。

朝鮮人児童 他校から大府・吉田校への 転入学時期

〈顔一つ＝一人〉

【図表⑤】



【図表④】　朝鮮人児童の転入学履歴データ〈部分〉

	氏名 姓名	生年月日	住所	保護者とその職業	本籍	転校履歴 転校経過
1	桧山[illegible]	昭和11・12・	大阪市大[illegible]	桧山		①大阪／大開→大阪／泉[illegible]
2	崔 [illegible]	昭和10・ 4・	一宮市松[illegible]	崔　屑糸商	慶尚南道居	愛知（一宮）→
3	夏山[illegible]	昭和11・ 5・	西宮市中[illegible]	夏山	慶尚南道金[illegible]	①兵庫／大社→
4	山本[illegible]	昭和11・11・	岐阜県赤[illegible]	任　日雇	全羅南道長[illegible]	岐阜（赤坂町）→
5	延日[illegible]	昭和11・ 7・	名古屋市[illegible]	延日	慶尚南道河[illegible]	①名古屋（北区）→
6	千原[illegible]	昭和12・ 2・	名古屋市[illegible]	千原 仲仕		①名古屋／大手→
7	岩本[illegible]	昭和11・ 8・	京都市下[illegible]	岩本 ファスナー	慶尚南道密[illegible]	①京都／陶化→
8	星原[illegible]	昭和12・ 3・	京都市右[illegible]	星原 撚糸業		①京都／安井→
9	昌本[illegible]	昭和10・12・	静岡県三[illegible]	昌本 採鉱夫	慶尚南道山	①福井／本郷→静岡／錦[illegible]
10	鄭 [illegible]	昭和11・12・	慶尚南道昌[illegible]	鄭　農業	慶尚南道昌	慶南／昌寧・大合→18092[illegible]
11	山田[illegible]	昭和 ・ ・	熊本県八[illegible]	山田 土木		①熊本／代場→静岡／新[illegible]
12	松本	昭和11・ 9・	愛知県海[illegible]	松本 土工	慶尚北道永	愛知（津島）→
13	木下月	昭和11・ 5・	和歌山市	木下 土木業	全羅南道広	和歌山（湊）→
14	金田貞	昭和 ・ ・	京都府与謝[illegible]	金田 土工	全羅南道光	①長崎／香焼→②③京都／[illegible]
15	金 [illegible]	昭和 9・ 4	大阪市旭区	金　土工	慶尚北道漆[illegible]	①②③大阪／生江→19102[illegible]
16	横城栄	昭和 9・12・	名古屋市[illegible]	横城 大同工員	慶尚南道昌[illegible]	①②名古屋／豊田→19083[illegible]
17	桧山小	昭和10・ 1・	岐阜県吉[illegible]	桧山 土工	慶尚南道金	慶南（[illegible]）
18	中野仙	昭和10・ 1・	兵庫県尼[illegible]	中野 職工	[illegible]	[illegible]
19	森本光	昭和 9・ 6・	愛知県知[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
20	宋嶺金	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

【表】の見方

①　＝初等科１学年

名古屋／中川＝名古屋の「中川国民学校」

愛知（津島）＝愛知の津島にある国民学校。校名不詳。

→　＝転校を表わす

→170901　＝学籍簿写しの送付（または受付）日付が「昭和17年９月１日」

○発注内容は、専用滑走路（一、三〇〇㍍一本）・関連工場・関連施設の建設。
○施工は、（株）大林組、他。
○工期は、一九四一・十・十五～一九四四年四月六日。
○用地は、国鉄『大府』・名鉄『太田川』間の知多丘陵地、一九〇万㎡
○動員された労働力は、地元近隣住民・生徒児童（勤労奉仕）そして、**日本各地から徴集された在留朝鮮人**である。

三、学校にのこる『学籍簿』を素材に

第一期工事について言及した、よく知られる公刊文献は、大府、東海、知多の市町村史誌類、そして『あいち航空史』（中日新聞社・刊）程度。

本稿ではそれらを参考にしながら、加えて、冒頭にふれた吉田国民学校関係資料（とくに転入朝鮮人児童の『学籍簿』**【図表①】**を踏まえている。

この学籍簿ファイルは、前記『大府市史』編纂時の基礎資料とみられる。

昭和十六年から二十年までに、吉田国民学校に転入学してきた朝鮮人学童の学籍簿の個票が綴られたもので、転入学状況に注目しながら閲覧し、それら児童の『転入学履歴データ』**【図表④】**を得た。

吉田校に残る転入学の朝鮮人児童の学籍簿個票は、一五〇余人分、転入直前校から送られてきたものでその学校の校長印を付し、公文書の体裁をとる。

個票の様式はまちまちだが、転入学児童の属性欄として「生年月日」「本籍」「住所」「入学年月日」「入学前の経歴」「修了年月日（初等科／中等科）」「入学後の異動及び事由」「保護者欄（氏名）（住所）（職業）（児童との関係）」があり、それらを読み取れば、児童一人一人の転入学履歴等がわかり、かつ全体を俯瞰すれば、吉田校への朝鮮人児童転入学の傾向が判明することになる。

もとより、転入学した児童自身が、飛行場の工事現場に直接動員されたわけではないので、あくまでも保護者が大府飛行場建設と『関わりあり』と見ることにより、朝鮮人動員実態を知る上での、有力で貴重な傍証となる。

四、各項目でわかること

一、**保護者の朝鮮本籍地**（わかるあるいは読み取れる範囲内で。以下同じ）

慶尚南道　五三%、慶尚北道　二八%、全羅南道十二%、他は、全羅北道、忠清南道、忠清北道、京城府、江原道を合わせて七%**【図表⑥】**

二、**転校履歴**

どこの、何校をたどってきたかを見てみることは、保護者の転々とした労働現場履歴でもある。

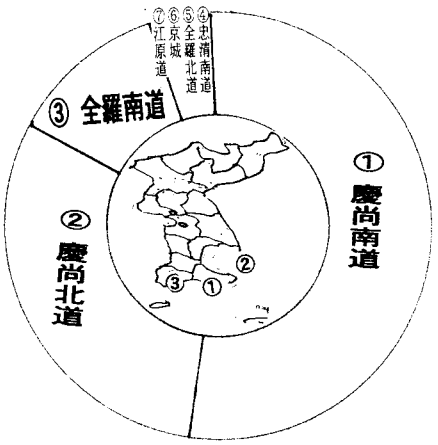
愛知県（豊山、平洲、乙川など）一〇〇例、大阪府（鶴橋、泉南など）二二例、京都府（紫野、槙島など）一五例、岐阜県（古川など）一三例、静岡県（竜山など）八例、兵庫県（大社もなど）八例、富山県（高岡など）三例、宮城県（多賀城など）三例、東京（町田など）三例、長野県（下伊那など）三例、福岡県（草ヶ江など）三例……都合一都、二府、二二県を、とりあえず確認できる。

三、**転校回数**

全国各地の建設現場を転々と移動する保護者にしたがって、吉田校への転入学は何度目のことになるのか。つまり保護者である労働

【図表⑥】　全体の8割が慶尚南・北道

保護者の「本籍」



者の、家族を伴って転々とする工事現場の数、ともなるが…。

一回目が吉田校（朝鮮半島から直接）＝九人、二回目の転入学先が吉田校＝七六人、三回目の転入学先が吉田校＝六一人、四回目の転入学先が吉田校＝四人、五回目（！）の転入学先が吉田校＝一人。

四　**転入校時期**

他校からの吉田校への児童の転入学時期【図表⑤】に注目すると、『一期工事』期間のみならず、拡張工事期（北海道から中国人が動員された時期）の期間にも引き続いている（むしろ増加している）ことがわかる。

五、適切な開示・検証が必要なデータ

朝鮮植民地支配の真相・検証に必要で、国の行政に関わる有力なデータとして共済年金・厚生年金資料があるが、それと同様に『学籍簿』なども同様である。政治の介入無用な歴史財産でもある。しかし、国側はいろいろの壁を設けて、合理的な真相追究・検証作業を封じ、その歴史素材を国民から遠ざけているのが現状である。

今回の資料整理が、『歴史の事実を解きほぐす』ことにつながればと願う。

具体的には、吉田校のみならず、前記の大府、東海、知多市の関連校においてもその完全廃棄の前に、学籍簿を含む学校史料の適切な開示と調査を期待する次第である。

【編集部から】

★本件について、こんご聞き取り調査をする計画です。ご協力頂ける方、または関連データを、事務局までお知らせ下さい。（末頁欄外の宛先＝電話・ＦＡＸ・Ｅメールいずれでも）

★★当面の課題として、①施工業者側の情報、②労働実態と労働災害、③大府飛行場建設現場からどこへ、④韓国・朝鮮の調査グループとの情報共有など。

★★★この項、随時掲載します。

【写真】、報告集会で挨拶する内河弁護団長

★無償化裁判★ 人権規約違反 明らか

名古屋地裁で続く朝鮮高校生『無償化裁判』第十四回口頭弁論が九月十四日午後開かれ、原告側〈中島弁護士〉は、文科省の朝鮮高校生への就学支援金不支給が国際人権規約〈社会権規約〉に違反しているとする準備書面の要旨を陳述しました。

また、この日提出された山本愛知県大教員の意見書『朝鮮学校で学ぶことの意味～朝鮮民主主義人民共和国との関係をいかに考えるのか？』について、同教員は法廷終了後の報告集会で、その詳細を報告しました。

次回〈第十五回〉の口頭弁論は十一月二十日〈月〉午後二時開廷。

★寃死者追慕★ 農耕隊死者も呼び上げ

九月一日恒例の覚王山日泰寺、『寃死同胞慰霊碑』前での追慕式で、今年初めて、朝鮮半島から『農耕隊』として愛知県下に派遣され、亡くなった朝鮮平安南道中和郡出身で、一九四五年五月二五日に死亡した「妻木熙珍氏」ら六名の名前も呼び上げられました。

参列者の中には二つの民族団体の役員はじめ韓国ソウルから参じた老尼僧もいました。

【写真】途中小雨。式はしめやかに続いた。追悼辞をよせる近藤国会議員。

論評

朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤンからの通信

アメリカは南朝鮮駐屯米軍を撤退させる政策的決断を下すべきである

朝鮮対外文化連絡協会

【編集者まえがき】本「論評」欄は、我が国とは未国交状態にある朝鮮民主主義人民共和国の立場や日朝関係を含む諸見解を理解できるように、同国の対外文化連絡協会（ピョンヤン）から日朝協会愛知県連（名古屋）に直接送られる情報・資料を紹介する欄です。

【朝鮮民主主義人民共和国・ピョンヤン 2015年9月19日発】
原文 日本語。タイトルも原文のまま。

一九四五年九月八日、アメリカ侵略軍が「解放軍」の名の下に南朝鮮を占領してから七〇年になりました。

歳月の流れとともに国際舞台では劇的な変化が起こり、世界は前進し続けています。

他国に駐屯していた外国軍隊が撤退し、過去の交戦国が敵対関係を大胆に解消しながら共存共栄を図っていくのが時代的流れとなっています。

これとは対照的に南朝鮮には依然として米軍が残っています。

朝米敵対関係は最悪の状態に至り、朝鮮の統一、平和保障問題は未だに解決されていません。

米軍の南朝鮮占領は、歴史的にも、国際法的見地から見てもそして今日の時代的流れから見てもいかなる場合にも正当化できません。

朝鮮は第二次世界大戦勃発を煽ったり、そのような行為に直接的に加担した戦犯国、敗戦国とは根本的に異なります。

真の国権回復を望んだ朝鮮人民の念願と朝鮮革命家たちが抗日大戦の火の海の中で積み上げた歴史的功績を見ても朝鮮は当然ながら一つの独立的かつ自主的な国家になるべきでありました。

第二次世界大戦時に調印された国際協定、戦後、効力を発した国連憲章にも朝鮮の分裂について言及した条項は全くありません。

にもかかわらず、朝鮮は外部勢力によって二分されましたし、朝鮮人民は外部勢力による民族分裂の不幸と苦痛を七〇年間も強要されています。

第二次世界大戦の火蓋を切った戦犯罪によって敗戦後強圧的に分裂されたドイツまで半世紀もならないうちに冷戦の終焉とともに統一されました。

アジア諸国に対する侵略の道に乗り出して敗戦した日本は分裂されませんでしたし、従って今まで統一の宿願がどういうものであるかという実感さえなく暮らしてきています。

外部勢力によって強いられた朝鮮の分裂は第二次世界大戦の因果関係でも説明できませんし、いかなる国際法をもっても合理化できない当代時代の汚点であり、歴史の悲劇であります。

朝鮮の分断七〇年は、いつ爆発するか分からない核戦争の危険が朝鮮人民の精神心理と発展を時々刻々と圧迫してきた歴史であります。

また周辺諸国ばかりではなく、全世界が手に汗を握り、肝を冷やしながら朝鮮半島で平和が破壊されないよう切願してきた歴史でもあります。

朝鮮の分断によって発生した朝

米対決の危険性は、朝鮮半島に局限されているのではなく東北アジアとアジア太平洋地域、米国本土と全世界へ拡大しています。

二年前にアメリカのある言論機関は、両国が日本の広島に投下された原子爆弾のような核爆弾一〇〇個をもって限定された核戦争をする場合、それによって二〇億人の生命と福利を危うくする人道的災難が招かれると主張しました。

朝鮮の分裂はこれ以上続いてはいけませんし、朝鮮は一日も早く統一されなければなりません。

朝鮮の統一はすなわち世界の平和であり、人類の生存と繁栄であります。

朝鮮が統一されず、朝鮮半島が常時核戦争の危険が濃く漂うホットスポットになっているのは、南朝鮮駐屯米軍と半世紀に二〇年を足した長い間、役に立たなくなった時代の骨董品である南朝鮮占領政策、対朝鮮敵視政策を捨てていないアメリカのせいであります。

南朝鮮駐屯米軍撤退問題は、本質において朝鮮の統一問題であると同時に戦争と平和に関する問題であり、人類の生死存亡に関わる重大な問題であります。

南朝鮮駐屯米軍をそのままにしては朝鮮民族の統一念願は実現できませんし、朝鮮半島と東北アジアの平和を望む人類の期待も現実化できません。

米軍が南朝鮮に駐屯し続ける名分はありません。

アメリカ侵略軍が、「解放者」の仮面をかぶって南朝鮮に上陸したのは絶対に正当化できません。

南朝鮮は米軍によって解放を迎えたのではなく、植民地の運命を強いられました。

南朝鮮の実質的な統治者の席は日帝からアメリカに渡されました。

南朝鮮駐屯米軍がソ連の「南下を牽制する抑止力」という冷戦時代の口実もこれ以上通じなくなりました。

冷戦は終結し、ソ連は崩壊しました。

南朝鮮駐屯米軍が共和国の「南侵を防ぐ抑止力」という看板もまったく妥当性のないものであります。

朝鮮民族は子孫代々一つの国土で暮らしてきた単一民族として世界の諸国で頭痛の種となっている種族間、人種間、教派間の葛藤のような内的矛盾がまったく存在していません。

北と南はすでに七・四共同声明と六・一五共同宣言、一〇・四宣言を採択して思想と制度の相違を超越したわが民族同士の理念のもとに北南関係において大転換、大変革をもたらす意志を誇示しました。

これでアメリカが主張するいわゆる「南侵脅威」というのはまったく存在しないということが明白に確証されました。

アメリカが何の名分もない南朝鮮占領政策を維持しつづけると自分らの腹黒い侵略野望、世界制覇野望を露呈させるだけのことになります。

南朝鮮駐屯米軍は解放者、平和の守護者ではなく占領者、侵略者であり、米帝の南朝鮮支配政策、対朝鮮敵視政策の軍事的執行者であります。

今日、南朝鮮占領を利用したアメリカの世界制覇野望も実現不可能になりました。

アメリカが広々としたアジア地域で頑固に南朝鮮を選択し占領した目的は単に朝鮮半島の半分だけではなく、南朝鮮を足場にして全朝鮮を占領し、大陸へと侵略の魔手を伸ばしてアジア太平洋地域を完全に制覇しようというのにあります。

第二次世界大戦時に戦後処理の問題に関連して開かれたワシントン会談、カイロ会談、テヘラン会談、ヤルタ会談などで朝鮮に対する「信託統治」を実施すべきだという途方もない詭弁が次々と出てきた背景には、朝鮮半島の地政学的位置の重要性を利用して世界を制覇しようとするアメリカ帝国主義の凶悪な野望が潜んでいました。

一九五〇年代にすでにアメリカ帝国主義の世界制覇野望は水の泡となってしまいました。

共和国が揺籃期であった時にも実現できなかった全朝鮮占領と世界制覇野望を共和国の力が非常に強化された今日になってかなえようとするのは世間の嘲笑を煽る愚か者の妄想であります。

時代錯誤的な南朝鮮占領政策はアメリカを破滅の窮地に陥れるでしょう。

第二次世界大戦後、最初の大き

な戦争であった一九五〇年代の朝鮮戦争でアメリカは史上初めて敗北し、血まみれの「勝利」の侵略歴史に終止符を打って滅亡の下り坂に差し掛かりました。

原子爆弾を保有したアメリカを小銃でもって降伏させた朝鮮人民の英雄的勝利は米帝には恐怖心と絶望感を骨身にしみるほど実感させ、反帝自主的な国の人民には大きな力を与えました。

二〇世紀の六〇年代と七〇年代に傲慢無礼に振る舞いながら繰り広げた挑発的な「三幕劇」である「プエブロ」号事件と「EC・121」大型スパイ飛行機事件、板門店事件はアメリカ帝国主義の恥辱的な敗北で痛快に幕を下ろし、一九九〇年代と二一世紀の朝米核対決戦はアメリカの対朝鮮敵視政策の総破綻へと繋がっています。

南朝鮮占領はアメリカが不本意ながら敗北の伝統を背負わざるをえなかった発端となりました。

共和国の核保有は、アメリカが南朝鮮を核前哨基地に変え、共和国への核脅威を続いていることに対応したもっとも正当な措置であります。

これでアメリカが原子爆弾をもって共和国を脅かしていた時代は永遠に終焉を告げるようになりました。

南朝鮮駐屯アメリカ侵略軍は朝鮮半島の緊張状態を悪化させる主役であり、突撃隊であります。

アメリカが南朝鮮と毎年繰り広げている合同軍事演習に参加している主力もやはり南朝鮮占領米軍であります。

「ウルチ・フリーダム・ガーディアン」合同軍事演習時に軍事境界線地帯で予想外の事件が発生して情勢は一触即発の極端な状況に陥りました。

現実は核戦争演習が絶えることなく繰り広げられる中で原因不明の事件が突発的に発生する場合、それが戦争へ繋がることもあり得るということを示しています。

南朝鮮占領米軍は核戦争のいけにえであります。

第二の朝鮮戦争が起こる場合、南朝鮮駐屯米軍は一人も生きて帰られません。

アメリカの保守的なシンクタンクとして知られたケイト研究所のある専門家は、南朝鮮で米軍を撤退させるべき理由について列挙しながらアメリカは数万名の米兵を「北の核脅威の人質として送ったわけだから北の核問題は在韓米軍撤退のいま一つの理由になる」と主張しました。

アメリカ本土にある侵略の本拠地とハワイ、グアムをはじめ太平洋軍作戦区域内の米軍基地も共和国の核の照準に入っています。

アメリカの安全を保障する道は、一刻も早く南朝鮮駐屯米軍を撤退させることしかありません。

朝鮮半島で統一気運が高まる度に核戦争騒動を起こし、挑発的な事件をでっち上げながら情勢を極度に緊張させた後には、南朝鮮に高価な先端軍事装備を売り払って私腹を肥やす旧態依然のやりかたはかえってアメリカの救いようのない禍根になりかねません。

アメリカは南朝鮮駐屯政策の維持による利益より、比べにもならないほど甚大な損失を被りうるというのを、肝に銘じなければなりません。

朝米対決で敗北を重ねているアメリカが南朝鮮駐屯政策を執拗に維持しての終着点は終局的滅亡であります。

本土の安全が大事なのか、殺人武装装備の販売で得る利潤がもっと大事なのか。

これはアメリカが南朝鮮を占領して七〇年が経った今日の情勢が問いかけるものであります。

アメリカは南朝鮮駐屯米軍を引き上げる政策的な決断を下さなければなりません。

もっと知りたい！
もっと交流を！

あいち日朝協会

★紹介=日本では語られない、朝鮮史から視る日朝関係★

交隣

朝鮮王朝の対日外交

★室町と江戸、通信使外交の比較

金宗鎭

【結び】

東アジア史の再評価こそ

室町と江戸の時代の朝鮮通信使は、遣唐使、遣新羅使の時代以来、久しく途絶えていた外交、日本の対朝鮮半島、中国との外交関係を再び本格的に開始したものである。日本にとっては、近世の中国、朝鮮との間に太い外交関係、貿易関係を開いたことになる。

朝鮮通信使は、その東アジアの安定と往来に計り知れぬ歴史的な役割を果たすことになった。

朝鮮通信使外交によって、東アジア近世文化は日本にも及び、江戸時代に近世を迎える。近世において、その主要な思想理念は、新儒教・朱子学である。

それは中国、朝鮮、日本と永い年月をかけて順次的にひろがった「排仏崇儒」は各国の事情で差異ははあったが、儒学理念は主要な理念の地位を占め、学問の中心となった。

しかしながら、朱子学理念の当代社会においての歴史的地位と役割は、正当な評価を得ていない。

実物、実際によって事理を究め、資質を向上し、社会・家庭を支え、国家・天下を治める。そして、民を日々導く…「大学」のそれなりの合理的な理念の面よりも、「朱子家礼」にみられる礼の形式主義や、人間の本質を論じる「四端七情」論争の教条化等の朱子学の反動性の面のみを強調している。

今後の朝鮮通信使研究に、アジアの思想史的な側面が深められることを期待したい。

現在、「朝鮮通信使」の世界遺産への登録運動が急速に進められている。「政界、学界、宗教界」においてそして市民的な運動の広がりを見せつつある。

その主なメロディーは「日・韓両国の未来志向、平和の使節に学ぶ」であろうか。

世界遺産登録に向けての課題は多いと考える。

① 通信使は、室町と江戸の時代を含めての朝鮮外交としてとらえる。

② 通信使は、中国、朝鮮、日本のアジア外交の一つとしてとらえる。「アジア未来志向」として生かされたい。

③ 通信使はその主体国である、朝鮮王朝の歴史文化との関連の中で意義づけられたい。朝鮮国の政・経・文化・科学技術との関連が求められる。一例をあげれば、朝鮮と江戸日本の貿易史に関しても体系的な研究書が出されていない。

④ 以上に関連して、「日本史」の充実、アジアの中の「日本史」研究が深まること。

「鎖国」論、「(日本の近世外交の)四つの口」論では、**語れない**歴史、朝鮮王朝との関係五〇〇年にもかかわらずに朝鮮史の重要人物を**語らぬ**歴史を克服することが望まれる。

豊かなる
朝鮮王朝の文化
ー交流の遺産ー
～11月8日 徳川美術館
★休館日 10/5.13 19.26. 11/2
大人 1,200円
電話052-935-6262

泊まり込み510日間。おばさん労働者の闘い描く

鑑賞のおすすめ 朝鮮芸文

〈その４〉

映画『Weabak：外泊』

（監督：キム・ミレ、2009年　韓国）

★映画ポスターから

伊藤一郎
（朝鮮文化を知る会）

本作品は第十一回ソウル国際女性映画祭（二〇〇九）、第十四回釜山国際映画祭（二〇〇九）、山形国際ドキュメンタリー映画祭（二〇〇九）で上映された韓国の映画作品である。

監督のキム・ミレ氏は、韓国社会が現実を、労働問題を通して撮り続けてきた。代表的な作品に『We Are Workers Or Not ?』(2003)、『NoGaDa』(2005) などがある。

映画の舞台は二〇〇七年六月の韓国のワールドカップ競技場にあるスーパーマーケット。約五〇〇人の女性労働者たちがマーケットのカウンターを占拠し、五一〇日間泊りがけの闘いに立ち上がった。

スーパーを経営するイーランドグループは、レジ係の非正規労働者を解雇して外注化しようとしていた。また新賃金体系で、差別を固定化しようとしていた。非正規、正規の女性労働者たちはその差別的扱いの是正に立ち上がったのだ。

女性労働者たちは既婚者ばかりで、労働組合運動の経験がない。しかし映画では楽観的な雰囲気があふれ、泊まり込みで闘い抜いた女性労働者たちの闘いの中には労働歌があり、踊りがあった。

映画の中では運動をやめさせようとする夫、離婚を迫られる女性労働者の姿なども描かれる。泊まり込みの闘いは同時に、男性中心の社内の是正、家庭的役割からの解放を獲得するための闘いでもあった。

映画で描かれている当時の韓国は、通貨危機の後で雇用環境が悪化しており、政府主導による所得の不平等化が加速的に進んでいた。多くの韓国人は自分たちの生活に対する危機感を感じていた。また、一九九八年からの労働市場改革（整理解雇法、派遣労働制の導入）をはじめとする「構造改革」により、非正規労働者が短い期間に急速に増加していた。非正規労働者の平均月収は正規労働者の約六〇％であり、非正規労働者のなかで社会保険に加入している人の割合は約四〇％にすぎなかった。ソウル駅には多くの家を失った労働者が駅のベンチにあふれ始めていた。

女性労働者が立ち上がって一か

『和解』伝える、日本某紙の見出し・写真〈2008.6.19付け〉

韓国 イーランド解雇争議が和解

サムソンテスコ本社前で集会を開く組合員ら＝6月13日、イーランド一般労組のウェブサイトから

非正規職のパワー発揮

闘争512日、180人が職場復帰

月後、非正規労働者の解雇を加速させた「非正規職保護法」が施行されていた。同法では、a・非正規労働者に対する「合理的理由」のない差別処遇を原則禁止する、b・期間の定めのある労働者を二年以上雇用すれば、事業主は「期間の定めのない労働契約」（正規労働）を結んだとみなす、c・派遣労働者に関しては、二年経過後、事業主に直接雇用を義務づける、などが規定されている。

しかし同法の規定する「合理的理由」とは労働委員会が策定する主観的な基準によるざる法である。さらに労使間の十分な合意なしに強硬的に制定されたところに問題がある。韓国の世論調査によると、非正規労働者の解雇を加速させた同法について、四〇％以上の国民が法律の改正が必要と回答した。

韓国では今日でも、労働者が企業に対して訴訟を起こした場合、勝率は1割程度である。労働法の定める解雇の要件を満たさない解雇でさえも、当局の主観的判断による基準により合法とされるケースが多い。司法は企業の手下と化してしまった。労働組合も、非正規労働者や女性労働者を擁護しない、いわゆる「御用労働組合」が幅を利かせている。官僚化、職業化した非労働者の役員が労働組合を組織していること自体が漫画である。

映画『Waibak：外泊』と同じように、女性労働者の闘いを描いた映画として韓国の東一紡織労組の闘いを描いた『私たちは風の中に立つ』（監督：イ・ヘラン、二〇〇六年　韓国）がある。韓国の労働者が持つ戦闘的エネルギーを世界に知らしめたドキュメンタリー映画である。

映画の舞台は一九七二年の韓国。大企業の東一紡織に勤務する東一紡織労組の女性労働者たちが、男性が牛耳る御用労働組合にNOを突き付け、女性差別、学歴差別との闘いに立ち上がった。東一紡織労組への政府、会社、御用労働組合からの弾圧は激しく、彼女たちは糞尿を投げつけられ、暴力を振るわれながらも闘い抜いている。

一九七二年から三〇年以上もたった二〇〇六年、東一紡織の前には彼女たちの姿があった。彼女たちの闘いのエネルギーは、自分たちの権利は自分たちしか守れないという自主性の意志であった。

彼女たちはいまも復職のための闘争を継続していた。韓国の民主化は、労働者に対する搾取だけでなく女性差別、学歴差別による二重、三重の苦しみを受けていた女性たちの闘いから始まったといえる。

映画『Waibak：外泊』、映画『私たちは風の中に立つ』はともに、韓国の闘う労働運動を表象した作品である。

ごあんない

江戸時代の美濃路を歩いた友好使節

朝鮮通信使ゆかりのまち 全国交流会 inおおがき

朝鮮通信使行列

開催日 平成27年 11月14日(土)・15日(日)

14日(土)　参加無料　事前申込
朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会

■開会行事
■記念講演
　演題／史料から見る朝鮮通信使の足あと ―近江と美濃をめぐって―
　講師／青柳　周一　滋賀大学経済学部教授
■日韓市民文化交流　出演　打緑琴(タヨンクム)、大垣少年少女合唱団
■閉会行事

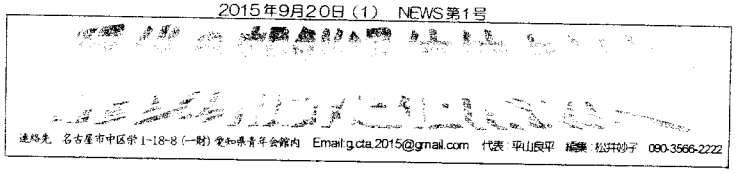
15日(日)　朝鮮通信使行列
コース　奥の細道むすびの地記念館～美濃路～本町通り～駅通り～新大橋
■出発セレモニー　■朝鮮通信使行列　■新大橋ステージ

14日(土)・15日(日)　関連イベント
■朝鮮通信使ゆかりのまち観光交流物産展　■朝鮮通信使パネル展

※イベントの内容・時間等は都合により変更する場合があります。　図版提供 大垣市

主催　大垣市、大垣観光協会、NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会

NEWS創刊号


2015年9月20日（1）　NEWS第1号

連絡先　名古屋市中区栄1-18-8（一財）愛知県青年会館内　Email:g.cta.2015@gmail.com　代表：平山良平　編集：松井砂子　090-3566-2222

歴史から学ぶ
隣国との真の友好交流へのみちすじ

朝鮮通信使連続講座

【第1回】

日時 **2015年10月30日（金）**
18:30-21:00
会場　国鉄会館7階　桜
（名古屋駅徒歩3分
名古屋市中村区椿町20-15）
参加費　**500円**
お話　小出　裕（会顧問）
平山良平（会代表）
内容　朝鮮通信使とは?

第42回韓日歴史・文化フォーラム

ごあんない

―韓国を愛した日本人―

柳宗悦と浅川兄弟

★主催者から

朝鮮半島が日本よる植民地統治の時代、朝鮮の人たちへの蔑視や差別は当然のように行われていた。こうした中、朝鮮陶磁器の美しさに惹かれ、生涯を通して朝鮮の人々を愛した日本人がいた。

植民地統治の初頭、朝鮮陶磁研究の第一人者である浅川伯教と朝鮮陶磁器と木工品について名著を残した浅川巧の兄弟は、朝鮮に移り住んだ。それまで見向きもされなかつた朝鮮陶磁器は、浅川兄弟によって一躍注目を集めるようになっていく。「民藝運動の父」と呼ばれる柳宗悦も浅川兄弟に影響を受け、朝鮮に渡り、朝鮮工芸に親しむようになる。

朝鮮陶磁器の美的価値を高く評価していた柳は、朝鮮陶磁器をつくり出した朝鮮の歴史についても深い関心を持つようになっていく。

彼ら三人は朝鮮陶磁器を守るだけでなく、それを生んだ国や民族を愛し、朝鮮の人々や宝を破壊から守り、朝鮮の人々から慕われる存在となった。

今回は、柳宗悦が初代館長を務めた日本民藝館より、学芸部長である杉山享司氏をお招きし、韓国を愛し愛された三人についてお話をしていただきます。

日　時／２０１５年10月7日（水）午後６時～
場　所／愛知韓国人会館　５階ホール
名古屋市中村区亀島1-6-2　地下鉄東山線「亀島駅」③出口より徒歩1分
参加費／５００円　※資料代として
主　催／韓日歴史・文化フォーラム実行委員会
後　援／駐名古屋大韓民国領事館・名古屋日韓親善協会・在外同胞財団
講　師／ 杉山享司（すぎやま　たかし）氏　日本民藝館 学芸部長

【お申込・問合せ先】FAX:052-452-1716　E-mail:jigyo@mindan-aichi.org
韓日歴史・文化フォーラム事務局(民団愛知内)　金栄一(キム・ヨンイル)　TEL：052-452-6431

ふりがな			
お名前			
お電話番号		FAX番号	

いま面白い市民運動の情報誌 JAPAN グループ紙誌 拝見

●瀬戸地下軍需工場跡を保存する会会報（一三一号＝二〇一五年九月一五日）【発行＝同会】

○八月二日・戦争体験を語り継ぐ会で二つの映像作品上映①椙山学園制作『風船爆弾』。②愛知県立大学学生星野さん制作『私の町の戦争の記憶』（十一分）

○瀬戸の祖母懐小学校の学校史に「昭和二十年四月十日（朝鮮北部出身の）農耕兵が一〇〇名、一〇〇町歩の開墾めざして宿泊」の記述を確認。

○瀬戸市九月定例議会で、原田議員が地下工場跡地保存について質問。同市交流活力部長、文化課課長の「共通の貴重な資料」、「保存の必要性」の観点から努力する旨の回答あり。

ほか

●革新・愛知の会（第二四四号 二〇一五・九・一〇）【発行＝平和・民主・革新の日本をめざす愛知の会】

○【インタビュー】もとむら強さん＝安保法案廃案へ！国民の声で変えられる

○【近ごろ思うこと】真実の報道に徹しなければ…佐藤　毅さん

○【高木徹さんの時事漫画《アベのレジーム脱却を》】歌に合わせてアベさんの似顔絵描き①にわかに空は黒い雲におおわれて②そうゆう時はアメリカ様の傘の下、日の丸二本はためかし　③アバハ、これが一番安全さ　④仕上げをしたら、ファッショ総理、完成だ。『じいちゃん、僕　頑張ってる』のふきだし。～同ニュースをご参照ください。

ほか

●軍装操典（第121号）【発行＝全日本軍装研究会／主宰・辻田文雄（岐阜市）二〇一五年九月二五日】

○【講演原稿】各務原空襲＝一九四五・六・二二…辻田文雄

○【資料紹介】ソ連対日侵攻作戦従軍記録（『軍事考古学研究』第二号）

ほか

【表紙＝三浦雅子】

日本と朝鮮／愛知版　2015年 9月(388)号
■発行／日朝協会　（発行責任者＝石橋正夫）■昭和28年11月30日 第三種郵便物認可
■編集／愛知県連合会事務局■464-0853　名古屋市千種区小松町6-9-1■T/F 052-731-9445
■E-ﾒｰﾙ=y-koide@mse.biglobe.ne.jp■ｻｲﾄ=http://www.aichi-nicchо.com/